

THE Y'S MEN'S CLUB OF NASU NETWORK NASU CHARTERED 1995

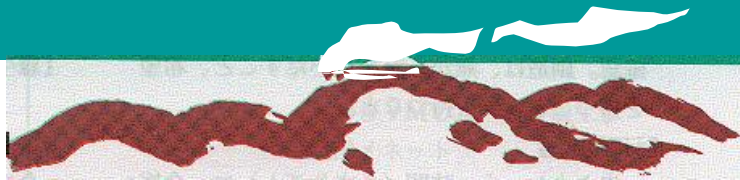


那須ワイズメンズク

2015~2016年度 No.204

1月 月報

那須クラブ会長 主題
拓こう 築こう ワイズの世界



強調月間：IBC/DBC



12月例会(クリスマス讃美礼拝・祝会) 12月16日(金)

2016~2017年度 主題
国際会長：(IP) Joan Wilson (カナダ)
「私たちの未来は、今日より始まる」
アジア地域会長：(AP) Tung Ming Hsiao(台湾)
「ワイズ運動を尊重しよう」
東日本区理事：(RD) 利根川 恵子(川越)
「明日に向かって、今日働こう」
北東部長：長岡 正彦(もりおか)
「明日のために、今土台を築こう」

クラブ役員 事務局
会長：田村 修也
副会長：村田 榮
河野 順子
書記：荒井 浩元
会計：鈴木 保江
担当主事：荒井 浩元
ブリテン：田村・村田

12月例会データ(出席率：83.3)
在籍者 6名
例会出席者 5名 ネット 3名
ゲスト 25名、

今月の聖句
新しい歌を主に向かって歌え。

旧) 詩編98：1

東京目黒クラブ 那須クラブ
1月 Happy Birthday
1/1 根本幸子ワイズ 1/15 田村暁美メネット
1/8 福島 正ワイズ

巻 頭 言

鈴木 保江

SMAPの解散におもうこと

ひそかにファンでしたが、コンサートや追っかけはしていませんでした。テレビのスクリーンから見られる笑顔が好きで夢がもりもりという番組からずっと見てきました。テレビで言われるようにアイドルらしからぬことばかりが他とは違って新鮮でした。いつかは解散するだろうとは思ってはいましたが、今回の解散では本人たちが一番悩んだと思います。そこで本当の友人、友情とはいったい何だろうかと思ってみたのです。

最近の子供たちは、親友と呼べる友人より友達がいっぱいいてみんなと楽しくすることが多いと聞いたこともあります。それはそれでいいのですが、本当の友人と呼べる友達が、何人いるのだろうか。独りで悩んだ時や迷った時に自分のことを話せる友人がいるのだろうか。自分が子供のころは、仲良しグループがあったり、思春期になると仲の良い友人とだけで交換日記をしたり、勉強のこと、受験のこと、好きな子の話など親にも言えないことをこっそり相談しながら大人になっていくものだと思っていました。何が答えかなんては二の次で友人と話をすることが楽しかったものです。今も続いているわけではありませんが、その時その時でじっくり話ができる友達はいました。

いろんな事があっても話をして、乗り越えて、成長していくことができ今の自分があるのだと思います。SMAPも同じですよ。解散しても、その時その時のことを乗り越えてきたことと思います。これからの子供たちもそのような友人がいて友情が続くことを願っております。子供たちの成長を楽しみにしながら年老いていきたいと思っています。

12月例会(クリスマス讚美礼拝・祝会)報告

日 時：12月16日(金)午後6時～

場 所：日本基督教団西那須野教会礼拝堂・集會室

参加者：メン：田村会長、河野副会長、村田副会長、原田、荒井。メネット：田村、原田、村田。ビジター：潘牧師夫妻、大下牧師夫妻、養徳園の児童と付き添い10名、那須 YMCA 会員、西那須野教会員他11名

12月16日(金)午後6時より、日本基督教団

西那須野教会にてクリスマス例会が開催されました。今年のクリスマス例会は、養徳園の子どもたちを招待して、そして料理も豪盛で、盛況の内に終えることができました。



プログラムは、田村会長の開会点鐘、聖書朗読・祈禱、ワイズソング、会長挨拶で始まり、第1部キャンドルサービスは、村田副会長の司会のもと進行され、説教は、西那須野教会潘炯旭牧師でクリスマスの意義を参加する皆様に伝えられました。第2部の食事会・祝会では、河野副会長の司会のもと、皆様持ち寄りのお食事をいただきながらの参加者の紹介をしたり、クリスマスソングを歌ったりするなど楽しい時間を過ごすことができました。養徳園の皆さんは、ワイズメンズクラブからクリスマスプレゼントを貰いました。多くの皆さんから持ち寄りの一品のごちそうを頂きながら、大変にぎやかなひと時であり、時間が経つのを忘れるほど実り多き時間となりました。



12月役員会報告

日 時：12月2日(金)18:30～

場 所：ココス西那須野乃木店

出席者：田村会長、河野副会長、荒井書記、村田副会長、田村メネット、協議事項

1. 12月例会の件

12月例会は、12月16日（金）午後6時開始で西那須野教会において、パイプオルガンによる讚美・燭火礼拝・祝会とする。養徳園の生徒さんをご招待します。メインの料理は、田村コメットがハッシュドビーフを作ってくださいます。メンバーは、一品持ち寄りと致します。村田メン・メネットは、お米を提供・養徳園の子供たちのプレゼントを準備。役割分担、受付、鈴木メン。1部司会、村田メン。聖書朗読・祈祷、原田メン。2部司会、河野メン。食前感謝、原田メネット。ゲームは荒井主事。謝礼について、潘牧師3000円、木村さん（伴奏）2000円、田村さん（料理製作）2000円。

2. 1月の新年例会は、1月20日（金）午後6時から。場所は、大田原市山の手1丁目3-9にある「岡繁」。担当は、河野副会長が調整。

3. 2月例会の件
CS公開講演会を計画する。

4. 1月役員会について

1月6日（金）午後6時30分よりココス西那須野乃木店にて開催する。

協議内容は2月例会、3月例会、その他、ブリテンの原稿

5. その他

- ・アジア学院卒業式 12月10日（土）
- ・YMCAの新しい事業として、学童保育について研究を進める。

旧西那須野（那須西原）の緑と水（46回）

田村修也

今回から、いよいよ那須疏水開削「大水路の運動を起こす」の項に入ります。

「昼夜涼々としてつきない流水を見ては、真に歓天喜地、手の舞足の踏むところを知らないほどの喜びであった。折角入植はしたものの、逃げ出そうか、留まろうかと、ふらふら腰でいた彼らも、これならやれる前途に希望をもつようになり、腰は次第に落ちて来て来た。印南矢板両人も、移住民等に対して、そのうちに水がくるから辛抱せよと、いいつづけてきた責任も一応ここに果たしたので、重荷をおろした感があった。」と田嶋 董翁は格調高く記しています。

しかし、この頃までには、那須東西両原一万町歩は、或いは団体で、或いは個人で、寸地も残さないまでに、開拓事業が創設されていました。これから、移住民が続々と入植してくることは明白です。そうなりますと移住民は皆水田を作って米

を作りたいと望むことは確実です。そのためにはこの飲用水路の細流だけでは、早々に飲料にも不足するようになることは目に見えている。今後は一刻も早く大水路を開削して、那須野が原を水田化しなければなりません。

ここで印南、矢板の両人は、新たな希望と共に、重大な責任を感じるようになっていきました。ここでお二人は、以前に企画した那珂川と鬼怒川をつなぐ運河開削のことを再度現実のものとするために、明治15年末、次のような請願書を栃木県令に提出いたしました。

瀬戸那須郡細竹村地内那珂川ヨリ塩谷郡氏家駅地内鬼怒川ニ達スル通船水路測量之儀請願

下野国那須塩谷両郡ニ跨ル原野ノ儀ハ、数千年来荒蕪ニ属シ居候故、此地ニ向テ、何様ニモ殖産興利之業ヲ施度、年来志願罷在、数度実地跋涉ノ上、熟慮仕候ニ、該野ノ荒蕪ニ属シ、其開拓ノ不成所以ノモノハ、暴風、沍寒等、種々ノ原因アリト雖モ、之ヲ要スルニ、水利ノ欠乏最モ其近因ヲ為スモノト信認仕候故、第一ニ水利ヲ通シ、第二ニ樹林ヲ植スルノ二点に着目シ、夫々着手仕候、内水利ノ事ニ至リテハ、那須郡細竹村ヨリ那珂川ヲ引入レ、其流末を塩谷郡氏家駅鬼怒川ニ注グトキハ、前段原野之開墾に就クハ勿論、陸羽諸州之産物、悉ク此水路ニ拠テ鬼怒川ニ通シ、終ニ東京ニ達スル一大水路ヲ開クモノニ付、其功益ノ所及、唯ニ二三州ノ間ニ不止モノト被存候条、先以テ、右那須郡細竹村ヨリ、塩谷郡氏家駅ノ間、別紙略図面ノケ所、実地測量仕度候処、技術ノ人ニ乏シク、殊ニ該業ハ、那須原野前面ノ開墾事業ニモ、大ニ関係ヲ有シ候儀ニ付、特別ノ御詮議ヲ以テ、兼テ福島県下安積郡へ御出張相成候、農商務省疏水御掛御通行の序ヲ以テ、疏水測量術御施行被成下候様奉願度、然ル上夫々着手之方法等ニ罷勉従事仕度心得ニ付、前願ノ旨意、可然農商務省へ上申被成下度、此段奉懇願候也。

栃木県塩谷郡矢板村 矢板 武

栃木県那須郡佐久山村 印南文作

しかし政府はこの事業に対しては、甚だ気乗りが薄く、到底実現の見込みは薄いため、矢板、印南の両人は、また別の手を打つより他に手立てはありませんでした。

こうしている内に、明治16年になり、那須野が原の水を求める事情は高まり、大水路開削の必要に迫られていました。ここにおいて、両人は東西両原の各開墾場主を呼び集めて、自らその惣代になり、強力に、政府に対して請願運動を展開し

ていくことにいたしました。こうして明治16年
印南、矢板両人は11月7日、各開墾場移住民た
ちの期待を双肩に担って、陳情運動を進めるため
に東京へと旅立ちました。

(以下次号へ)

今後の予定

・1月役員会

日時：1月6日（金）午後6時30分～

場所：ココス西那須野乃木店

内容：1月例会、2月例会、講演会、2月号ブリ
テンの発行等。

・1月新年例会

日時：1月20日（金）午後6時～

場所：岡繁（大田原市山の手1丁目3-9

TEL0287-22-2472）

内容：新年を語る

会費：3,000円

・第2回東西日本区交流会

“語ろう！未来につなぐワイズスピリット！”

日時：2月4日（土）14:00～5日（日）昼
食後解散

場所：日本YMCA同盟東山荘

登録費：13,000円

・2月役員会

日時：2月3日（金）午後6時30分～

場所：ココス西那須野乃木店

内容：2月例会、3月例会、4月例会、3月号ブ
リテンの発行等。

・2月例会（CS公開講演会）

日時：2月23日（木）午後6時～

場所：日本基督教団西那須野教会集会室

講師：白井愛海（那須赤十字病院 認知症認定看護師）

演題：「認知症を正しく理解しましょう」-基礎
を学び、事例を皆さんで分かち合いましょう-

西那須野幼稚園だより

学校法人 西那須野学園 西那須野幼稚園

理事長・園長 福本光夫

「みんなみんな 流した涙の分だけ優しくなり

あまえとわがママを受け入れて自由になり

感動と感謝によって大きくなり

友達に囲まれて豊になり（晴佐久昌英）」

冒頭の文は、カトリック教会の司祭の晴佐久昌
英さんが、ガンかもしれない腫瘍の手術で入院と
いう大変苦しいなかで書かれた詩の抜粋です。私
たちの生活も、不況が良くなったとマスコミが伝
えますが、そのような実感はなく、格差は拡大し、
引き続き大変苦しい中に置かれています。経済的
な問題ばかりでなく、私たちは仕事や子育てなど
の日常生活において、様々な困難や苦しみを感
じる時があります。そんな時、弱さを見せず頑張り
通すことも大切かもしれなませんが、晴佐古さん
は冒頭の文の前に「恥もいらない いつものやせ
我慢や見えっぱりを捨て かつこわるく涙をこぼ
そう またとないチャンスをもたらったのだ 自分
の弱さをそのまま受け入れるチャンスを」と書か
れています。私はこの詩を読んだときに肩の荷が
下りた感じを受けました。ものごとを肯定的に受
け入れることによって私たちが希望を持ち、子
どもたちに夢を語り、大変なときは「助けて」と
言いましょう。弱い存在かもしれないけれど一生懸
命な姿を子どもたちに見せることが大切と考えま
す。

養徳園の沿革

児童養護施設養徳園

園長 福田雅章

養徳園は、昭和32年11月に創設された児童
養護施設です。創設者の野沢益治（故人）は、喜
連川町（現さくら市喜連川）にて金物屋を営む商
人で、私財をもって創設しました。「養徳」の名は
天理教に由来するものですが、施設の創設に天理
教の支援があったわけではなく、今でも天理教と
の関係はありません。一個人の想いで作られた施
設といえます。

児童養護施設は、児童福祉法に定められた児童
福祉施設です。保護者からの虐待、保護者の離婚
や病気、予期できない災害や事故など、さまざま
な事情により家族による養育が困難な子ども達が
生活しています。大半の子ども達は高校卒業時に、
就職や進学を選択し施設を離れていきますが、自
立が困難な場合は20歳までの入所が可能となっ
ています。

養徳園では、創設から今日まで618名の子
ども達の養育に携わってきました。私は、昭和41
年（5歳時）に152番目の子どもとして養徳園

に入所し、小学3年生まで生活しました。大学卒業後10年間、公立中学校の教諭の職ありましたが、平成5年に退職し、養徳園に奉職しました。平成7年10月に施設長に就任し今日に至っています。創設者の野沢は常々、「世襲はしない。養徳園で育った子どもの中から後継者を選びたい。」と語っていたらしく、私に白羽の矢が立ったのです。

養徳園の玄関には「養徳器成」と書かれた額が掲げられています。「徳を養い器成る」これが本園における養育の根本にある理念です。徳とは何か。創設者である野沢は、子どもにもわかるように「明るく、素直に、温かく」とおっしゃっていました。子ども一人ひとりの権利擁護に努め、明るい心、素直な心、温かい心を育てることで、人格の涵養に努め、ひいては望ましい社会人として社会に送り出していくこと。これが野沢益治が目指したものでした。私もそれを理念として子どもの養育にあたっています。

現在の養徳園の定員は52名です。平成17年に新築した本館は、52名のうちの22名の子どもが生活していますが、地域の子育て支援のために児童家庭支援センターも併設されています。6名の子どもが生活するグループホームが5か所あり、30名が地域で暮らしています。子ども達は栃木県内全域からやってきますが、最も多いのが宇都宮市、次いで那須塩原市、大田原市の順です。養徳園は栃木県で最も北にある施設ということもあり、県北地区からの入所が多いのです。



昔の養徳園



今の養徳園

YMCA 報告

【とちぎYMCA スキーキャンプが無事に終了いたしました！】

12月下旬にありました、とちぎYMCA ウィンタープログラム、スキーキャンプ（計2本）が予定通り実施され、無事に終了いたしました。当初は雪不足に心配されていましたが、キャンプ前に雪が降り、スキーレッスンには影響がないほど無事にゲレンデがオープンされました。また、1・2月にある日帰りスキープログラムに向けて準備が進められています。子どもたちはプログラム中、



有意義な時間を過ごし、貴重な体験を重ねることができました。リーダーたちもそれぞれの役割の中で子どもたちと向き合い、共に過ごしました。また、ウィンタープログラムならではのスキープログラムが目白押しですが、リーダーたちもスキー実技トレーニングに参加し、スキー指導技術向上だけではなく、リーダーとしての成長を育んでいきました。

【YMCA イングリッシュ那須クリスマスパーティを開催しました！】

12/10（土）に、YMCA イングリッシュ那須に通っている子どもたち向けに、クリスマスパーティを行いました！約30名の子どもたち！！英会話講師のShallon、Liz、Josh、Johnと一緒に、普段のクラスとはまた違う雰囲気ですワイワイ楽しんでいきました！子どもたち、英会話講師、アシ



スタントスタッフのそれぞれが、互いに交流し、クリスマスパーティを楽しめたのはとても素敵なことだと感じました。

【とちぎYMCA・那須YMCAの1月の予定】

- ・1/4（水）より年始のウィンタープログラムスタート
- ・1/14（土） サタデークラブ@西那須野幼稚園（凧作り）
- ・1/21（土） サタデークラブ@西那須野幼稚園（クッキング）
- ・1/22（日） ワンデイスキー@エーデルワイススキー場
- ・1/28（土） サタデークラブ@西那須野幼稚園（クッキング）
- ・1/29（日） ワンデイスキー@エーデルワイススキー場
- ・1/30（月）～1/31（火） 全国YMCA国際事業担当者会・第36回国際協力委員会@在日韓国YMCA（荒井が出席）

ユースリーダーのつぶやきコーナー

【すっちーリーダー（須江卓矢）・ヤンリーダー（金安理香）】

私たちは3日間の全国YMCAリーダー研修会を通し、「あの体験があったから、今の私がある」というテーマに対して、とことん向き合い考え、話し合い、伝え合うことができた。自らの体験を振り返ったり、ゲストスピーカーからの体験を聞いたりすることで、どんな体験が自分自身を豊かにしてくれたのかと改めて考える機会になりました。そして、実際にプログラムを企画する中で、様々な視点を順序だてて考え、プログラムを構成することの大切さを学んだ。私は毎回の定例活動やキャンプはメンバーにとって一生に一度きりの体験であると思います。そのような貴重な体験に私たちリーダーが関わっていることを実感し、子どもたちの成長に対する思いや願いを明確にすることを心がけ、これからのリーダー生活を送っていきたくて思いました。最後に私たちをこの研修会に参加する機会を与えてくれた主催YMCAをはじめ、とちぎYMCA、他沢山の方々に感謝いたします。

集めています

年賀はがきの3等、年賀切手をワイズで集めております。是非皆様のご協力をお願いします。2016-2017年ロースターの62ページに運用規定が掲載されております参照ください。

編集後記

・1月号のブリテン大変遅れて申し訳ありません。多くのクラブより1月号のブリテンが送られてくるたびに何とかしなければと焦りを感じています。月初めにブリテンを発行したいとの思いを持ちながら原稿が集まらないもどかしさを感じています。



1月に入ってからのメールが送られてきました。是非皆様のご協力をお願いします。

「前文略」 私は、茨城ワイズメンズクラブの会長の稲本修一と申します。 私事で大変恐縮ですが、皆様方に折り入

ってお頼みがございます。もうすでに新聞、テレビ等でご承知の方もいらっしゃるかと思いますが、実は私どもの2人目の孫、啓（ひろ）が重い心臓病（拡張型心筋症）で現代の医学では残念ながら、心臓移植しか生きる道がないという事態になりました。心臓移植のためには、2つの超えなければならぬハードルがあります。

1つ目のハードルは移植手術をしてくださる病院の問題です。日本で移植が出来れば非常にありがたいのですが、2010年の臓器移植法の改正により、15歳未満からの臓器提供が可能になりましたが、幼児の移植例は6年でたった4例しかなく、急を要する場合は唯一アメリカでの移植手術に、頼らざるをえないのが実状です。しかしながら、アメリカでもすんなり移植手術を受け入れてくれる訳ではなく、5パーセントルールというのがあり、例えば、ある病院で年間100人の移植手術の実績があれば5人まで外国人枠があり、30人ですと、1人しか受け入れてもらえないということになります。幸い私共の孫は、主治医でもあります東京大学附属病院の平田先生のご努力尽力で、ニューヨークにあるコロンビア大学病院が受け入れてくださることになりました。

2つ目のハードルは、移植に対する費用です。アメリカでの医療行為は、保険が全くききません。病院への前払い費用、補助人工心臓装置を装着しているため、医療専用ジェット機のチャーター費用、約1年間の家族の滞在費用などで、孫の場合は、3億1千万円を要することを知りました。この金額は、残念ながら私共個人ではどうすることも出来ません。幸い、息子夫婦の友人8名が、「ひろくんを救う会」を結成して下さり、昨年12月22日に茨城県庁で記者会見をし、多くの新聞、ラジオ、テレビで取り上げていただきました。早速同日から募金活動が始まり、街頭募金とメディアで知った方々からの銀行振込募金も含めて、昨年末で1400万円近くの募金を頂戴しました。目標金額まではまだまだではございますが、必ずや皆様方のご厚意で到達出来ると信じて、声を限りに募金活動を続けて参ります。このような次第でございますので、まことに勝手なお願いでございますが、各クラブ会長の皆様におかれましては、事情ご賢察下さり、何卒ご支援賜りますようお願い申し上げます。「後文略」
<http://www.savehiro.com>のホームページを開いてご確認ください。